

1 学校運営の中期目標

現状と課題

商業の専門高校である本校では、基礎基本の学習を重点に、専門教育においては「資格の取得」と「技術の習得」を目標に掲げ、ビジネス社会における基礎的な知識と技術の習得と社会規範を遵守する態度の育成を重点目標にしている。また、普通教育においては、大きく変化する社会を生き抜くための「考える力」の育成をめざしている。

入学時における生徒の学力状況は、成績分布の幅が広く、基礎学力や学習意欲において個人差が大きいため、学習指導面での課題がある。基礎学力が不足している生徒への対応はもちろんのこと、学習意欲が高く、やる気のある生徒については更に学力を伸ばすための指導が必要である。

生徒の大半が卒業後すぐに社会で活躍することから、生活指導においては基本的な生活習慣や言葉遣い、身だしなみ、時間を守るといった生活指導全般にわたる指導が不可欠である。また、専門的な知識技術に加え、社会人として求められる資質をしっかりと身につけることで多くの企業から求められる人材の育成し、就職指導の充実を図る。

また、進路指導面においては、生徒自身の将来に対する意識が希薄であるため、進路に対する関心が低い生徒も見受けられる。進路意識の向上に加え、学習活動全般にわたったキャリア教育を推進する必要がある。また、家庭においては、生徒の日常生活や進路選択に関心を持つ時間的余裕がない状況も見られる。学校との情報共有が少ない保護者に対しては、日々の連絡や情報提供の機会をどのように持つかが課題である。

近隣の新規中学卒業生数が減少したことに加え、平成 28 年度より入学者選抜が制度変更となったことで、本校を含む職業に関する専門学科への志願者数が著しく減少した。その対応として、中学生やその保護者に本校の教育活動をアピールし、より理解を深めてもらうための新たな取り組みや広報活動の充実が喫緊の課題である。

このように、様々な課題を抱える中、国際化や少子化、規範意識の醸成など学校を取り巻く社会環境やニーズの変化も年を追って激しくなっている。これらの変化に対応すべく、教職員が協働する組織づくり、自らの資質を向上し指導力を高める工夫、地域や社会と連携した人づくりの教育を進める努力が求められている。また、教育効果を高めるための工夫としての「褒め育ての実践」と企業や地域、他の教育機関と連携した取り組みを進め、それらの活動や成果を広報することで、本校のみならず商業教育全体への理解と期待が得られるものとする。

これまでも、年 2 回の授業参観や地域と連携した防災訓練、フォークソング部による地域活性化の取り組み、イベントの開催等々を実現してきた。今後数年間で、生徒の多くが「学校が楽しい」と思えるように、授業と課外活動を充実させ、地域、近隣の中学生に直接働きかけられる取り組みを充実させたい。そのためには、教職員の資質と組織力の向上に加え、他校に無いような施設設備の充実が不可欠である。1 年を通じて快適に学習活動ができる施設設備の充実が実現できるように努力する。

中期目標

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 学校が楽しいという生徒を、今後4年間で10%以上増加させる。(平成29年度を基準)
- 各種検定において基礎資格である3級の取得をめざし、取得率7割を目標とする。
- 授業が分かりやすくなったという生徒を、今後4年間で10%以上増加させる。
(平成29年度を基準)
- 今後4年間で、卒業時の進路未決定者ゼロを目指す。

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

- 毎月の指導目標を定め、全校で取り組む。(挨拶、服装、マナー向上等)
- 始業式、終業式を合わせて月1回程度の生徒朝礼を開催し、分掌主任等が講話する。
- 部活動を活性化し加入者を増やす。今後4年間で、加入率を10%以上向上させる。
- 定期健康診断に基づいた受診指導の受診率を今後4年間で10%以上改善する。
(平成29年度を基準)
- 各種講演会、学習会(薬物乱用防止、情報モラル、支援教育)を開催し、教職員の意識の向上を図る

【市民や地域の期待に応え、生徒が楽しく、意欲的に学べる環境や取組みの充実】

- 防災意識の向上と地域住民とのコミュニケーションを目的とした取組みを実施する。
- 今後中学生対象の公開講座を夏季休業期間中に開催する。
- 地域の文化財等を英語で紹介する仕組みやビデオ制作する。
- 本校を志願する中学生を今後4年間で20%以上増加させる。(平成29年度を基準)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】教務 進路指導 校長

○ 褒め育ての教育を実践し、その成果を共有することで教育力の向上を図る。

- ・今年度末に学校が楽しいという生徒が、過半数となるようにする。
- ・個性を生かし褒めて伸ばす教育を実践し、生徒が学校中心の生活を送れるよう明るく楽しい学校づくりを推進する。また、各分掌、教職員の連携を強化する。
- ・公開授業の実施と見学参加(全ての教員が公開授業を年1回以上+見学3回以上)を実施。

○ 「資格の取得」と「技術の習得」を勧め、ビジネス社会で生きるための社会人基礎力を身につけさせる。

- ・各種検定において基礎資格である3級の取得をめざし、取得率7割を目標とする。

○ 常に授業力を高める工夫をし、基礎基本の充実とより専門性の高い授業を両立させる。

- ・今年度末に授業が分かりやすくなったと答える生徒を、全体の60%以上となるようにする。

○ 「主体的・対話的で深い学び」を定着させ、キャリア教育の充実を更に推進する

- ・1年次からしっかりした進路意識を持ち、自ら学ぶ姿勢を持って取り組める生徒を育成する。
- ・今後4年間で、卒業時の進路未決定者ゼロをめざす。
- ・進路指導部と学年が連携し、キャリア教育、進路相談を充実させ、進路未決定者を減らす。

(昨年比)

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

生活指導 進路指導 保健 人権

○ 挨拶と笑顔の溢れる安心で安全な学校づくり

- ・毎月の指導目標を定め、全教職員で取り組む。（挨拶、服装、マナー向上等）
- ・学校の雰囲気良くなったと答える生徒、保護者が70%以上となるよう努力する。

○ 規則や時間を守る習慣を身につける（施策2 道徳心・社会性の育成）

- ・始業式、終業式を合わせて月1回程度の生徒朝礼を開催し、分掌主任等が講話する。

○ 生徒が学校中心の生活を送れるような明るく楽しい学校づくりの推進

- ・部活動を活性化し加入者を増やし、加入率を前年度よりも5%UPさせる。

○ 生徒が健全な学校生活を送れるように保健管理と環境美化に取り組む

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

- ・定期健康診断に基づいた受診指導の受診率を改善する。昨年度よりも改善させる。

○ 人権教育と支援教育の充実

- ・各種講演会、学習会（薬物乱用、情報モラル、支援教育）を開催し、教職員の意識の向上を図る。

【市民や地域の期待に応え、生徒が楽しく、意欲的に学べる環境や取組みの充実】

総務 教科指導 特別活動

○ 魅力ある学校づくりの取組み

（施策6 施策を実現するための仕組みの推進）

- ・校長によるマネジメントを強化することにより、生徒への学力向上、進路保障、インクルーシブ教育の充実、校内各種委員会の精選、地域や中学校への情報発信などを中心とした、魅力ある学校づくりをおこなう。特に令和4年度新教育課程の準備として、観光ビジネス教育の研究・キャリア教育の充実を図る。

○ 地域との連携を目的とした取組み

（施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

- ・防災意識の向上と地域住民とのコミュニケーションを目的とした取組み（イベント、防災、地域の清掃奉仕）を実施し、生徒の積極的な参加を促す。
- ・敷津浦地域の防災訓練との連携を図る。また、生徒の学びの場と地域との交流を両立させた独自のイベントを開催し、連携を深める。
- ・地域活性化を目指した名物・新商品を地域企業と共同で開発する。その過程で郷土の文化や歴史に加え、デザインやマーケティングなど商業の幅広い知識を学ぶ。
- ・中学生対象公開講座（コミュニケーション入門、商業入門、入試対策講座）を開催する。また、近隣中学校との部活動での交流会も継続して開催する。

○ 本校の教育活動の効果的な広報

- ・学校HPを充実し、日頃の教育実践を教職員と生徒が積極的かつ効果的にPRする。
- ・全ての教職員が一人1件以上、HP掲載用の写真と記事を提供する。
- ・体験入学、学校説明会の集合時に視聴してもらえるように、広報用DVDを体験入学までに制作する。
- ・中学校への広報活動の充実（教員による中学校訪問、生徒の母校訪問）
総務、教務、担任が協力して、中学校別で在校生の現状を把握する。
- ・中学生対象公開講座（コミュニケーション入門、商業入門、入試対策講座）を開催する。また、近隣中学校との部活動での交流会も継続して開催する

○ 新たな教育課程の編成をめざし、商業高校として、これからの時代に必要な能力や知識を検討する。

- ・教育課程検討委員会で新教育課程の編成作業に着手している。

3 本年度の自己評価結果の総括

中期目標に向けた年度目標は各項目において概ね達成できた。今後も学校協議会の提言を踏まえ、より充実した校務運営の実践につなげていきたい。

- ・1学年において、基礎級である3級の合格率が簿記検定以外は概ね7割を達成することができた。今年度はコロナウイルスの影響もあり指導が従前より不十分な部分もあった。上級については、3年生の全商3冠以上達成者が5名（うち5冠2名）（昨年度1名）あった。来年度も、指導方法の改善を視野に入れ基礎学力の定着、上級の取得者増をめざしたい。

- ・今年度も相当の期間を設け全教員の授業を全教員が自由に参観することで各自の授業力向上を図る「公開授業」を実施した。次年度についてもさらに改善を加え取り組んでいきたい。

- ・今年度末のアンケートの結果、「授業が理解できていますか。」の問いには、「できている。」と「だいたいできている。」の合計が88.8%（昨年度85.4%）であった。また、「学校は楽しいですか。」の問いには、「大変楽しい。」と「楽しい。」の合計が85.6%（昨年度81.5%）であった。「部活動に入っていますか。」の問いには、「入っている」が22.8%（昨年度24.2%）で「以前は入っていた。」が14.4%（昨年度13.6%）で「入っていない。」は62.8%（昨年度62.1%）であった。

- ・進路意識の向上を図るため、3年生はもとより1・2年生においても外部より講師を招聘し、講習会を行うなど機会を増やし、早い段階から進路意識を高めるように取り組んだ。

- ・生徒会活動においては、コロナウイルスの影響のため体育祭・文化祭の同時開催となった。今年度も団活動は行われた。昨年度に引き続き、全員参加の団パフォーマンスに取り組んだ。団活動により学年を越えた生徒同士の連携が生み出され、学校の活性化に寄与した。今後も引き続き取り組んでいきたい。

- ・基本的な生活習慣を確立し、時間を守る習慣を身につけさせ、集団生活におけるルールを守ることの大切さを理解させるため、生活指導部を中心に校門にて、朝の挨拶運動を実施した。挨拶運動の成果もあり、遅刻件数は一昨年度4891件、昨年度2452件、本年度1758件（1月末現在）と2千件台を維持できている。次年度においてもより一層改善できるよう指導していきたい。

- ・コロナウイルス対策のため、実施回数は減少したが、教職員の研修において、救急救命（AED）研修、コンプライアンス・サービス研修など、可能な限り研修を実施することができた。

- ・敷津浦地域との地域合同の防災訓練はコロナウイルスの影響のため実施できなかった。

- ・本年度は「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」に参加できなかったが、コロナウイルス感染症対策のため校内美化・校内消毒を中心に取り組んだ。

- ・今年度も地域の企業、和菓子屋 幸成堂（継続）と連携し販売実習に取り組んだ。生徒の学習意欲の向上と授業の充実のために学校外の組織との連携について今後も積極的に取り組んでいきたい。また、来年度も地域の企業や団体等と連携し地域の活性化および学校PRにも寄与していきたい。

- ・学校HPの更新回数は1月末日現在140回であり目標を大いに上回った

- ・教員による中学訪問は、250校（昨年度17校）であった。令和4年度に向けて来年度は新たな広報活動を展開したい。

- ・「三商祭（淀商、鶴商、住商の3商業が共同したPR活動）」は中止となったが、代わりに3商業のクリアファイルを作成し、広報活動の一助とすることができた。

- ・校長によるマネジメントのもと、生徒への学力向上、進路保障、地域や中学校への情報発信も来年度も継続していきたい。特に令和4年度からの商業科コース制および観光ビジネスの導入を視野に入れ教育課程の編成にも力を入れていきたい。